

# LUCERNO



(Bulteno de la Japana Sekcio de ILEI) n-ro 11 aprilo 2015

## Organizaj notoj de la 4-a ILEI-Seminario en Orienta Azio (ISOA)

ISIKAWA Tiekō

- Laborgrupo (preparkomitato)  
ISIKAWA Tiekō, KINUGASA Hiroshi, Belmonto (Yamasita Toshihiro),  
UENO Yuriko, MURATA Kazuyo, YAMAKAWA Setuko, HUZIMOTO Ricko
  - Helpantoj  
Redakto de la 1-a Bulteno=ISINO Masayo,  
Turismado=TAHIRA Masako, TAKAHASHI Kazuko  
Aferoj pri OOMOTO=KIMURA Katuya, HAZAMA Hiroto
  - Taskoj kaj laboroj laŭkalendare  
2013.08.15 sendis petleteron al OOMOTO pri la uzebleco kiel la seminariejo  
2014.02.07 Prof. KIMURA Goro Christoph akceptis prelegi en 10.09  
06.02 sendis invitilon al s-roj WANG Xiahong kaj WANG Xiaotie  
07.03 donis al la prezidanto de JEI rekomendleterojn pri la akiro de vizo  
por ok ĉinaj partoprenantoj  
08.25 la samon faris por ses ĉinoj  
09.15-30 redaktlaboro de Seminaria Kajero  
10.02 presado kaj broŝurado de Seminaria Kajero ĉe JEI-oficejo kaj  
ekspedado de necesaj aĵoj al Kameoka  
10.07-11 ISOA  
10.11 akompanis grupon de partoprenantoj al Japana E-Kongreso  
en Obama  
10.27 sendis raporton pri la ISOA al la Revuo Orienta (decembra numero)  
10.31 sendis raporton al IPR (14/4)  
11.04 venis kasraporto kun profito de 37,834 enoj.
- ◎ Intertempe okazis 13-foje perskajpaj kunsidoj kaj multfojaj interŝanĝoj de retmesaĝoj kaj telefonado.
- ◎ Aliĝoj venis eĉ post la limdato, kaj ni havis malfacilaĵon aparte pri dormĉambroj kaj turismado. Tamen problemoj estis fine solvitaj pro la kunlaboro de koncernatoj.
- ◎ La sukceso de la evento multe ŝuldas al ĉiuj de la laborgrupo, homoj en OOMOTO-Centro, helpantoj kaj kompreneble al 38 partoprenantoj el kvin landoj.

### ENHAVO de LUCERNO 11

- Pli la 4-a ISOA... p1---p11  
ISIKAWA Tiekō, やましたとしひろ  
UENO Yuriko, MURATA Kazuyo  
石川尚志, 衣笠弘志,  
YAMAKAWA Setsuko
- 2014年「ILEI-JP年次総会」報告... p11
- La Internacia E-Sumoo... p11---p12
- エスペラント入門講習会... p13
- 沼津 エスペラント通信講座... p14



## ISOA4 はこうしておこなわれた

belmonto, やましたとしひろ(鹿児島)

----- 1 -----

ilei 東アジアセミナーに参加したのはこれで3回めである。

第1回は2011年の8月、河北・天津外国語大学であった。十をこえる講義がつぎつぎとおこなわれ、質問や討議の時間がまったくなかった。ただのおはなし拝聴でおわってしまい、かなり消化不良の感がいなめなかった。夏期学校にきていた学生たちも参加していた。

2012年7月の第2回め、ベトナム UK 直前の雲南・昆明には不参加。ilei のなかで午後半日おこなわれ、講義をきく時間だけだったようだ。

2013年1月の第3回は、韓国全羅北道・益山でおこなわれた。わたしとしては随分研究をして資料をととのえていた。しかしながら、この会議では、全般的に「なんの資料がたりない」「なんの研究がたりない」「なにがほしい」ということに終始してしまったような気がする。質疑応答をふくめた発表がすべておわり、最終日にはその総括がおこなわれるものと予想していたが、参加者全員に感想をあげさせるだけ、という期待はずれにおわってしまったのであった。もっとも最終日は司会者がかわったので、総括のうちあわせができていなかったのか、一貫性をかいてしまったのだろう。

これは実によくなかった。総括ができなければ今後すすむべき方向性がしめせない。次回はもっと意義ある内容のものがほしいとおもった。

第4回京都・亀岡での ISOA は、2014年10月、福井県小浜での日本大会に参加しやすいように、その直前に組んだ。今回開催するにあたり、準備委員会としては十数回におよぶ skajpo での会議をおこなった。委員会としてははじめてのころみだったようで、最初ぎこちなかったものの、次第になれて普通につかえるようになった。わたしははじめ発表する意志があったが、調整にまわっ

たほうがよいと判断した。事前のおもな分担はホームページと冊子づくりということになった。

まずは今回の目的として、理論・理屈ではなく、どう実践したか、ということを中心にしようということになった。

そのためには過去にどういう議論があったかをしる必要があった。さいわいわたしのホームページ<sup>\*1</sup>に過去の音声記録などが掲載してあったので、それをすべてきいてみじかくまとめていった。

次回のスカイプ会議にまにあわせようと集中してききとり作業をしたので、非常につかれた。

(内容ごとに分類するが、冒頭の数字は ISOA の回を示している)

#### ■ 指導計画・取り組みの提案

- 1 belmonto 「初心者のために e 放送をはじめよう。具体例」
- 1 イジュンギ 「E 教育の項目と順序、応用が大切。シラバス」
- 2 Nema 「よい文章をくりかえし暗記すること」
- 3 belmonto 「教科書の類別、KLMF<sup>\*2</sup>、ビデオ、語彙調査でわかったこと」
- 3 Nema 「毎日エスペラントを使う」

#### ■ 実践・現状報告

- 1 藤本律子 「高校での実践報告」
- 1 リーウェイルン 「中高生に E をおしえよ」
- 1 ミャウホイ 「寺での公認された E 講習と波及効果」
- 2 リーウェイルン 「こどもにあった方法を」
- 2 ウエイイービン 「中国のこどもに E をおしえるのは意義がある」

#### ■ 問題点指摘

- 1 Nema 「初級からのかべをうちやぶるには」
- 1 Arko 「BEK コースと困難」
- 1 ワンミンハウ 「指導者の質に学習者の質がかかっている」
- 1 ハンツーウー 「言語能力を向上させ実践させること」
- 2 堀泰雄 「おしえるに大事なことと技術」
- 2 リウパウグオ 「チェ・メソッドは中国人につかえるか」
- 3 Arko 「大学教育での問題点を解決するには」

#### ■ 希望・期待、運動・現状

- 1 石川智恵子 「たのしく学習し会話できるチャンスを」
- 1 チャンチャンション 「江蘇省での E 運動について」
- 3 石川智恵子 「日本の現況」
- 3 イジュンキ 「よい印象をあたえよ」
- 3 Leono 「E レジャーランド」
- 3 ソンピン 「黒竜江省での E 運動について」
- 3 マールクシュ＝ガーボル 「経歴として役立つ E」

しかしこれができたおかげで、今回の ISOA がなにをめざすべきなのか、という方向性を明確にでき

たのではないかとおもう。これにより参加者のどういうひとたちに原稿を依頼するかという選定にかかり、石川智恵子さんを通して、はなしの方向性を明確にしめして依頼したのであった。しかし、ぼちぼちあつまってきた原稿は、こちらの意向とくいちがうものがおおくなってしまい、とても残念に感じる。最終的にはつぎの発表がおこなわれた。

#### ■指導方法

4 衣笠弘志「パノラマ方式」について

#### ■実践報告

4 山川節子「パノラマ方式をどう使ったか」

4 Jado「わが校でのエスペラント」

4 Li Weilun「小学校でのエスペラント授業」

#### ■課題・研究

4 Arko「エスペラント指導者の実力を高めるには」

4 Nema「Fundamenta Krestomatio の重要性」

4 木村護郎クリストフ「東アジアでエスペラントをどう教えるか」(特別講義)

このなかでもよかったとおもうものは、衣笠弘志氏の詳細な指導理論と計画案である。いままでのISOAでは報告のなかった詳細をきわめる力作であった。あとで冊子をよくよめば、さらに理解・実践できるものである。ほんとはこのようなものがあふれる冊子にしたかったのだが。詳細にかいてないものは、つかいみちがない。

さて今回は3日めをDua Parto: Scienco Bone Instruiと定めて、総括討議の時間をもった。実にさまざまな意見が交錯してで、まとまりがつかない。司会の石川智恵子さんはとりまとめに大変苦労したが、結局は明確な総括をえるにいたらなかった。今後の煮詰める作業が必要となる。Nemaの提案したコミュニケーションツールにしても、各国のe-istoのメディアの状況がかなりことになっており、(というより、インターネット活用能力が日本のe-istoはおとっており)、実施はむずかしいという感想をもった。提案のあったWeChatにもあとで参加してみたが、漢語簡体字の発音できないIDや、漢語でのかきこみがあいついだため、いやになり退出してしまった。

----- 2 -----

さて、参加申し込みや資料配布などはilei.jpのホームページをとおしておこなった。しかしあまりうまく活用されなかったように思える。石川さん個人あてのもうしこみがおおく、日本がわからはほとんどもうしこみがなかった。参加者がふえるたびに参加者名簿を更新し、1a bulteno, 2a bulteno, そしてセミナー冊子もこのホームページ上で公開した。

原稿があつまってきたはいいが、形式が一様ではなく、文字配置やページ配置、脚注や写真(これも最後までまってもあつまらなかったひとのものはネット上からひろってきた)をいれて、統一性をもたせた。ここまでの作業はLibreOffice Writerでおこない、pdfに出力したあとはAcrobatで地にノンブルをうち、天に柱(タイトル)つけをおこなった。ノンブルはおおきさや位置を何度もためし、

タイトルのあるページには柱をつけないようにした。改定によりページだてがちがってくると、これらの作業はすべてやりなおしである。全部で5回ほど「最終直前版」や「最終版」をつくるはめになってしまった。また単色印刷のみばえのために、IrfanView で写真を全部いろいろがうすいものに加工した。それでも、JEI で印刷をしてもらったあと、表紙の誤字にきづくというおまけもついた。

ホームページでは参加者名簿をぬいた版を準備して公開した\*3。

----- 3 -----

さて、ISOA 直前の土・日に九州大会があり、Nema, Suno, Kristal, ロシア籍の Miša の4人が韓国からやってきた。熊本・京都間の高速バスの案内やら、ビザのことやらでいろいろとやりとりをした。初日のあさ、関空経由で京都にむかったわたしは、偶然、亀岡にむかう山陰本線の列車のなかでかれらとであった。

大本の施設はとてもりっぱだった。会議場の大ホールのPAのコンソールはよすぎて、マイクひとつ、映像ひとつ、てだすけがなければつかえなかった。最初の講義がおわった段階で、Arko の提案により、まえむきの座席配置を四角にかえたので、たがいのかおをながめながらはなしをすすめられた。これはとてもよいことであった。

休憩のあいまあいまにはのみものや茶菓がよくととのえられていた。初日よるの交流会も緊張をほぐすのに適当なものであった。

2日めの午後、大本の施設を見学してまわりながら、参加者はとてもなかよくなれたようにおもう。最終日4日めのあさには、なきのわかれもあった。

そのよる、夕食後の Nema の講義をホールでまつあいだに、皆既月食 plena eklipso がはじまった。2階のテラスにでて「月食でなんていうんだ」とか、月にまつわる各国の伝説などわいわいしながらみているうちに月はあかく変色してうすくなっていった。

参加者のなかにはエスペラントが全然わからない、あるいはほとんどわからないひとがまじっているというので、2日目、講義と平行して、わたしは中国人3人を対象に1階のロビーで直接法(日本語を使えないので当然だが)によるレッスンをおこなった。ところがなかのひとりの学生が、少々エスペラントがわかるので、かんがえさせる時間をわざとつくっているのに、すぐに英語でたすけぶねを、しかもしょっちゅうだすので、エスペラントのみで考えさせるというもくろみは破綻してしまった。もう一度実施して、合計4時間ほどのレッスンをおこなった。

会議の席上での会話のスピードだが、日中韓の人々はほとんどがとてもゆっくりで、わたしにはややもどかしい。しかし木村護郎教授の講義はスピード感があって大変心地よかったし、中身も有益なものであった。ところがあとで参加者から「スピードがはやすぎてさっぱりわからない」という批判がでた。「ふつうの半分くらいのはやさではなしたんですが」ということであったのだが、

はやさになれる訓練も必要だとおもった。

晩、同室になったマークシュ・ガーボル氏にハンガリーの言語状況をききたくてはなしていると、興味をひかれたか、中国人某氏がわりこんできた。これがかなりのブローケン・エスペラントで、それにくわえて中国語まじりでベラベラいつまでもしゃべるので、たいへんよわった。エスペラントをきちんとまなんだのではなく、ききおぼえエスペラントではないかということをおもった。マークシュ氏はつまらなさそうにねてしまった。

----- 4 -----

最終日の京都観光の昼食後に、わたしは予定通り帰路につくことにしていた。観光するにはふむきだが、荷物を全部もってでかけた。金閣寺、西陣織会館、そこで昼食。少人数のグループにわかれて行動するという計画が功を奏し、特に問題なくスムーズに進行した。

そのあとわがグループがバス停にいたところ、道路むかひの西陣織会館のほうからしきりにわたしたちになにかさげんでいる。そのあとすぐに京都駅いきのバスがきたので、わたしはそれにとびのって、そこでわかれた。あとでしったところでは、記念写真をみんなでとろうとよびかけたということであった。だから西陣織会館まえでの写真にはわたしがうつっていない。

さて台風が九州に接近してくるなか、出発するかどうかわからず、空港ロビーで長時間またされたのちにやっと関西空港からとびたつた飛行機は、鹿児島空港への着陸体制にはいるあたりでドーンとゆれ、悲鳴のあがるなか、滑走路に接地しかかかって、そのままとびあがった。着陸のやりなおしかとおもえたが、ぐんぐん上昇し、そのまま関西空港にひきかえしてしまったのである。格安航空なのでホテルの手配もない。やっとのりこんだ最終にちかいバスで大阪市内にひきかえした。一日中つかっていたスマホは電源がきれかかり、なんとかホテル探しまで済ませたあとにシャットダウンしてしまった。大阪駅ちかくのはずのホテルの場所がわからず、おおあせをかいてあるきまわり、やっとホテルを見つけた。午前1時だった。よくねられぬまま翌朝はやく出発し、鹿児島直行の一番の新幹線にとびのって鹿児島にもどってきたのであった。よくぞ予備費をおおめに持っていたものだ。ふつか後、台風は関西地方を通過した。

ISOAでKristalがわたしに「関空へいく最短ルート」についてきいたので、調べてメモをわたしていたが、それも不要になったようだ。日本大会の最終日の早朝、田平稔さんが外国人一行を先導して関空につれていき、全員無事帰国できたよし。

報告やら、旅日記やら、ようわからぬものになってしもうたが、ご容赦あられたし。せわやくのみなさま、協力者のみなさま、ほんとおつかれさまでした。

\*1 <http://esperas.info/index.php?ISOA>

\*2 Klare, Laŭte, Malrapide, Facile

\*3 <http://ilei.jp/>

ILEI-Seminario en Orienta Azio(ISOA) okazis en Japanio ĉi-foje. La ISOA estis la 4-a foja. Mi unuafoje partoprenis en la 2-a, Ĉinio. Kaj sinsekve ankaŭ en Koreio. Al mi ŝajnas, ke la diskuto de la Seminario iom post iom fariĝis vigla. Tamen la problemoj (Ekzemple: Kiel oni instruos Esperanton al homoj? aŭ En kiuj rimedoj ni altigos la parolkapablon? ktp.)de la landoj diferencas laŭ la lando. Ni, membroj kaj aliaj de ISOA kolektiĝis por trovi solvon en Kameoka, Kioto. Ĉu la entrepreno en Japanio sukcesis? Mi pensas, ke tio sukcesis. Jes, ni gajnis la grandan atingon. Kaj la estraroj decidis la venontan kunsidon ISOA en Ĉinio. Ankaŭ mi volas kunlabori por disvastigo de Esperanto kun aliaj esperantistoj kaj altigi mian kapablon de Esperanto.

これまで ISOA は中国、韓国で 3 回、行われた。今回、初めて日本が主催した。この会合はエスペラントをどのように教え、広めるか、また、どのように能力を高めるか、話し合われた。有意義な討論がなされ、私にとって実りあるものとなった。

~~~~~

**Impreso pri ISOA** 2014.10.16

MURATA Kazuyo

La 4a ISOA(ILEI- Seminario en Orienta Azio) okazis de la 7a ĝis la 10a de oktobro. Seminariejo estis OOMOTO-Centro, Kameoka.

Ĉijara ĉeftemo estis “Kapabligo de instruistoj/gvidantoj por bona gvidado”.

Kiel konate “ILEI” estas Internacia Ligo de Esperantistaj Instruistoj. Pro tio kunvenintaj personoj estis instruistoj aŭ gvidantoj, iu instruas en elementa lernejo, iu laboras en universitato, k.t.p. Krome troviĝis iliaj lernantoj. La aĝo de partoprenintoj estis de 18 ĝis 77. En ĝi partoprenis entute 38 personoj; 16 Ĉinoj, 8 Koreoj, 1 Ruso, 1 Vjetnamo kaj 11 Japanoj.

Mi estis unu el 6 prepar-komitatanoj. (Mia tasko estis nur plenumi unutagan ekskurson al Kioto.) Krom mi, aliaj 5 komitatanoj jam spertis antaŭajn ISOA-jn, kiuj okazis en la jaro 2011(Tianjin-Ĉinio), 12(Kunming-Ĉinio) kaj 13(Iksan-Koreio).

Por prepari la Seminarion, ni komitatanoj uzis multfoje retmesaĝon, kaj 14 foje faris Skype-konferencon, kiu estis tre utila. Danke al tiuj mekanikoj loĝante en fora loko (unu loĝas en Kagosima) ni povis plenumi multege da necesaj aferoj.

Ĉi foje mi povis scii, kiel malfacilaj problemoj okazas, antaŭ kaj dum seminario, precipe pro eksterlandaj partoprenantoj. Unue organizanto devas trakti vizon por eksterlandanoj. Por gajni vizon, oni devas prepari iliajn detalajn itinerojn, kiuj estas la plej malfacila tasko. Ĉar ili ofte ne scias, en kiu loĝejo ili dormos...

Mi raportu pri mia tasko, Unutaga turismo en Kioto. Mi elektis nur 3 lokojn por vizito, ĉar en aŭtuna bona sezono svarmas turistoj en la urbo, kaj en busoj homoj estas plenplenaj. Se pli ol 30 homojn oni kune gvidas, multe da tempo estas bezonata. Kaj la plej grava afero estis kie ni tagmanĝu. S-ino Tahira Masako, kiu havas multajn spertojn, donis al mi utilajn konsilojn.

Je nia surprizo, tri ĉinoj subite nuligis la partoprenon. Pro tio ni embarasiĝis, ĉar ni jam aĉetis la biletojn por trajno kaj buso, rezervis la manĝaĵon en la restoracio.

Laŭ la kutimo de Japanoj, oni ne agas tiel facilanime, ĉu ne?

Antaŭ ĉio la 10an de oktobro la suno brilis kaj ni povis ĝui belegajn pejzaĝojn en la templo *Kinkaku-zi*. En la Centro de *Nisizin-ori* ni spektis la montradon de *Kimono* tre belegan. La pompa konstruaĵo kaj luksaj japanaj pentraĵoj ĝojigis nin en *Niĵo-ĵo*. Kaj feliĉe neniu perdiĝis.

En la 11a, 26 personoj kune iris al la urbo Obama, por partopreni en la 101a JEK

~~~~~

## ISOA 参加の記

石川 尚志

昨秋 10 月 7 日から 10 日まで亀岡で開かれた ISOA に参加した。私は ILEI のメンバーでないが、実行委員の一人である連れ合いが、日本人参加者が中国や韓国の参加者より少なさそうだから出てくれ、というのでその勧めに従うことにした。亀岡は 1993 年に 80 回日本大会が開かれたとき以来なので、懐かしさもあった。

中国 ILEI の代表的メンバーである Gong Xiaofeng (Arko) と娘の Sofia、Wei Yubin (Jado)、学生の Diko の四人は関西から 4 日に東京にやってきた。男 2 人は池袋のホテルへ泊まったが Arko 母娘を我が家へ迎え、ISOA の前哨戦が始まった。エスペランチストを家に泊めるのは久しぶりだし、中国の客は初めてだ。5、6 日と志木 E 会例会とか東京の案内をしたがあいにくの台風で行動が制約されたのは残念だった。東京駅で次々と日本、中国の参加者が合流、さらに京都駅から山陰線で亀岡へ向かうときはさらに人数は増えた。

7 日朝に新幹線で京都へ向かい、当日午後から 9 日いっぱい Seminario が次々と続いた。参加者は最終的に日本が 12、中国 16、韓国 8、ヴェトナム 1、韓国在住のロシア人 1 人ということだった。参加者のレベルはさまざまで E は始めたばかりとか、観光が主目的らしき人もいたようだ。私自身、E を教えた経験もなく報告義務もないから気楽な observanto のようなものだった。教育現場からの報告は大きなテーマだったろうが、日本の参加者は現役の教師はおらず、実践に基づく報告議論は過去の経験に基づいたものだった。一方中国からは、小学校 2 校での E 導入の実際が動画を伴って報告された。韓国からの報告は、教育現場からのものではなかったが、若くて力強い発言がなされた。今回の ISOA はセミナーの参加者の数の構成からいっても内容からしても今後の東アジアのエスペラント運動の将来を示しているのではないかと私には感じられた。

プログラムには初日の interkona vespero や大本の施設や庭園、町を散策する duontaga ekskurso などもあり、また食事の際などに中国、韓国の人々との打ち解けた会話ができる。個人的レベルで冗談を言い合い、中国人にも韓国人にも色々な人がいるな、と至極当たり前のことを改めて感じた。最終日の 10 日は京都観光だったが、私は都合でお昼まで皆と行動を共にして、先に東京へ帰った。ほとんどの参加者は、翌日からの第 101 回日本エスペラント大会の開催地小浜へ向かった。小浜の地で参加者はさらに日本の田舎の良さを知り、東アジアのエスペランチスト同士の友情を育んだことだろう。

(resumo) Kvankam mi ne estas membro de ILEI nek instruanto de Esperanto, mi partoprenis en ĉi-foja ISOA. Filmaj prezentoj de E-lecionoj en ĉinaj bazlernejoj kaj fidindaj raportoj de koreoj donis al mi impreson, ke ili montras ontan E-movadon en orienta Azio.



## 第4回 東アジアエスペラント大会 ISOA (2014/10/7~10/10)に参加して

衣笠弘志

大会の4か月ほど前からスカイプでの会議を重ねることによって、日頃はあまりエスペラントに触れていなかったが、私は係担当としての仕事も準備も、何とかこなせた。

実際に参加して、自分の会話力のなさを痛感した。十分に聞き取れない、思うように話せない。「希望する人」のエスペラントが、私にストレスを与え失望的にさせる。今まで学習を疎かにしていたツケだ、自業自得だ。話合いの中味がもっと理解できていれば、その分だけ充実感が増しているだろうに、と何回も思った。個人的には、大いに悔いが残る。悔しさが募る。

それでも参加していて、心地よかった。京都亀岡大本本部の学習会場は広くゆったりして素晴らしかったし、宿舎・食堂・会場が同一敷地内のために移動が楽だった。同室の石川尚志さんとは、早朝に境内の周りを散策し気持ちよかった。

開催者日本側の今回の目標は、「“よき指導のために講師に必要なエスペラント能力”をいかに養うか」である。各発表者のテーマに沿って、より深く議論をすることを打ち合わせから心掛けた。その点はいまよくいったと思う。満足度は高い。発表後の話し合いの場をコの字型にしたのはよかった。司会・会場係の臨機応変が現場で発揮された。

1日目に、(33年前に私が考案した)パノラマ方式の紹介発表をした。パノラマ方式そのものと考案者の自己紹介にもなったと思う。(さらに、初日夕食後の InterkonaVespero[交流の夕べ]では、参加者同士の交流を兼ねての場づくりにもなった。要所では、村田和代さんに手際よく手伝ってもらった。)

パノラマ方式は、「くからだ」とことばの会の会員を対象に、エスペラントを手ほどきした時に生まれた。短時間でエスペラントの主要な文法項目を理解するための方法である。(当初は、「はじめ方式」と呼んでいて、仲間の知恵と工夫が活かされた講習会だった。)今回発表の準備をしていて、パノラマ方式の意図がより明確に理解できた。受講生の母語が何語かによって、各項目の重要度と優先順位を変える。説明だけで済む個所と繰り返し慣れが必要な個所を明らかにする。文法項目の中で、何を選び出しどの順番で手ほどきするか、これを見極めるのがパノラマ方式の核になることを再認識した。動詞・(日本人にとっては)前置詞・名詞と形容詞・目的格の使い方などが講習の学習内容になる。

当時「性と平等」の講習会に、山川節子さん・福永牧子さんがパノラマ方式を取り入れて応用したことで、考案者の意図が引き継がれた。その時の実践報告を、私の発表に続いて山川節子さんが行った。「性と平等」講習会での目次の中味は同じだが、テキスト本文は(私のと違って)実際の手紙文である。このように応用が利く点でも、パノラマ方式は有用だと言える。他者に活用しやすい方法こそが、独り歩きできるから。

私と山川節子さんの発表が終り、話し合いに入った。山川修一さんが口火をきって、議論が進んでいった。

素晴らしい映画を観終わったり、面白い小説を読み終わったりして、その興奮が冷めないうちに、その中身を人に話したくなるように、人は自分の感動を他者に伝えたい。これと同じように、パノラマ方式でも、講習を終えたばかりの人が、「動詞の変化はこうで、名詞はこうよ、一字一音でアクセントは終りから二つ目の母音にあつてとか、そういう興奮と感動が、夢と希望を呼び寄せる。パノラマ方式では、入門講習を終えたばかりの人でも、エスペラントのあらましを人に教えることができる。エスペラントに初めて接した人には、それこそが希望になるのではないだろうか。私が33年前に実感したことだ。

1986年北京大会では、(当時世界エスペラント協会副会長)梅田善美さんの計らいによって20分余りでパノラマ方式を紹介する機会を得たが、交流の時間があまりなくて、物足りなかった。今回はどうだろうかと、懸念していた。(後日、韓国の若手 Suno からパノラマ方式に興味出たと、ハガキが届いた。韓国語版や中国語版を使って、東アジアで同時に講習会を開くことも夢ではない。各国語版は、大筋は同じでも、枝葉では幾分異なるだろう。さらに、パノラマ方式が西洋人にどのように受け止められるか、改めて関心を抱いた。)

中国の Li Weilun 氏は、若い人たちを育てている。氏とは前年に昆明の大会で初めて会った。韓国の Nema にも再会できた。顔見知りになり同時代人であることを嬉しく思う。エスペラントのお蔭だ。

京都市内の観光旅行でも、韓国・中国・ベトナムの若い人たちとも個人的に親しくなったし、エスペラント界に希望がもてた。(そんな年齢になったのだと思うと感慨深く感傷的になる。)

(resumo)

Persone mi bedaŭris ke mi ne bone komprenis la diskutadon, sed mi ĝojis konatiĝi kun kelkaj junaj alilandanoj. Mi estis kontenta, ĉar mi parolis pri Panorama Metodo, kiun mi elpensis antaŭ 33 jaroj. Per Panorama Metodo, la lernantoj povas havi panoraman vidon de la esperanta gramatiko dum kelkaj horoj, legante de dek ses aspektoj unu solan leter-tekston konsistantan el 130 vortoj. La ordo de la enhavo estas grava: 1) verbo 2) substantivo 3) prepozicio 4) subjektivo kaj verbo 5) akzativo 6) substantivo kaj adjektivo 7) verbo kun adverbo 8) sintagmo adjektiva/adverba 9) konjunkcio kaj subjunkcio 10-11) vortero: prefikso/radiko/sufikso, kaj aliaj.

~~~~~

### **Mi partoprenis la seminarion kiel unu el la organizantoj kaj la raportantoj.**

YAMAKAWA Setsuko

La programo de la seminario konsistis ĉefe el du partoj sub la seminaria temo "Kapablo de instruistoj/gvidantoj por bona gvidado". En la unua parto estis prezentoj kaj raportoj pri modelaj lecionoj kaj metodoj fare de partoprenantoj el tri landoj: Koreio, Ĉinio kaj Japanio. Ankaŭ estis prelego pri necesaj aspektoj por bona gvido. En la dua parto ĉiuj kune diskutis pri la seminaria temo.

Post prezentado de "Panorama Metodo" fare de s-ro Kinugasa Hirosi, mi raportis pri utiligo de la metodo en Esperanto-kurso. Antaŭ pli ol 30 jaroj mi estis unu el la eldonantoj de la japana versio de Sekso kaj Egaleco, la esperanta gazeto pritraktanta seksan diskriminacion. Ni faris nian propran lernomaterialon laŭ la Panorama Metodo kaj la kurso estis tre sukcesa. Sed la materialo estis en dormo sur mia libroŝranko ĝis lastatempe. La nuna seminario donis al mi okazon denove studi la Panoraman Metodon. Kaj mi eksentis, ke eblas utiligi la metodon en la nuna tempo, uzante diverstemajn tekstojn laŭ la intereso de la kursanoj.

Raportoj kaj prelegoj de alilandaj partoprenantoj stimulis mian intereson pri instrumanieroj.

Bedaŭrinde, mi ne povis partopreni la duan parton, nome, la diskuton pri la seminaria temo, ĉar mi devis forlasi la seminariejon pli frue. Mi kredas, ke la partoprenantoj aktive interŝanĝis spertojn kaj opiniojn dum la diskuto.

Kiel organizanto de la seminario mi ĝuis kunlaboradon kun aliaj membroj de ILEI-Japanio. Estis notinde, ke la japana sekcio de ILEI sukcese efektivigis la ĉi-fojan ISOA-n, kiu estis internacia evento de orientaziaj landoj. Ni lernis kiel utiligi skajpon por efike progresigi preparadon.

Mi dankas la Oomoto-Centron de Kameoka, ke ĝi disponigis al ni bonegan lokon kaj servon por komforta seminaria vivo dum 4 tagoj. Tio ja estis unu el la plej gravaj faktoroj por la sukceso de la seminario. Mi kredas, ke ĉiuj partoprenantoj, inkluzibe de mi mem, ĝuis ne nur seriozajn programerojn sed ankaŭ konatiĝon kaj amikiĝon kun gekolegoj el aliaj aziaj landoj ĉe manĝotabloj, dum promenado, en ekskurso, ktp. Estus eĉ pli bone, se pli multaj japanoj povus sperti la ISOA-n en Japanio, kvankam ferii por ĝi dum labortagoj estus malfacile.

---

## 2014 年「ILEI-JP 年次総会」報告

(文責：衣笠弘志)

ILEI-JP は、第 101 回日本大会（小浜市）初日 10 月 11 日の分科会で、年次総会を開いた。計 8 人（藤本律子・石川智恵子・石野昌代・斎木彰・上農百合子・衣笠弘志と非会員の白井裕之さん、田平正子さん）が参加した。

会計報告（2013. 10. 01～2014. 09. 30）に続いて、大会前に京都亀岡で開かれた第 4 回 ISOA（東アジア ILEI セミナー）の報告をし、講評や感想・反省を述べ合った。

各セミナリオの発表のあとで、じっくりと時間をとって各発表について議論ができた。テーブルを囲んで丸くなって参加者の顔が見えるようにしたのも、良かった。今後もこの形式を活用したい。

ILEI-JP の規約については、用意した規約の原案を詳しく検討した。特に紙会員・ネット会員、総会の定足数などに関して、意見のやり取りをした。

第 5 回 ISOA は、8 月に中国で開催予定である。開催都市や中味などを自由に話しながら、中国エスペラント事情について白井さんから、いろいろ聞くことができた。

### Raporto de la Jara Ĝenerala Kunsido de ILEI-JP

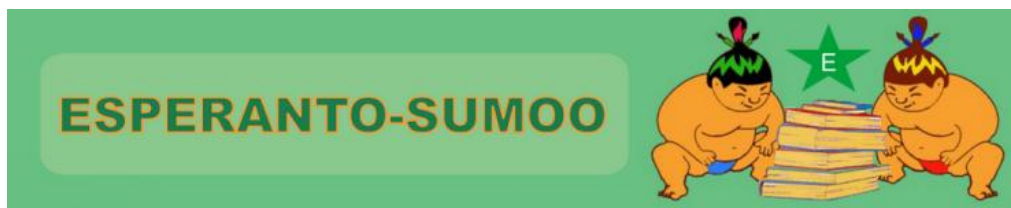
En la 101-a Japana Esperanta Kongreso, ILEI-JP havis sian fakkunsidon, kiu servis kiel jara ĝenerala kunsido. Ni raportis pri la 4-a ISOA (ILEI-Seminario en Orienta Azio) fininta en Oomoto antaŭ tiu ĉi JEK.

Ni diskutis detale pri regularo de ILEI-JP kaj havis liberan tempon parolante pri la venonta seminario en Ĉinio.

---

La Internacia Esperanto-Sumoo

MATUKI Joŝinobu



Mi longe partoprenas en la Internacia Esperanto-Sumoo, kiun fondis s-ro HORI Jasuo en la jaro 2009.

Sumoo estas japana tradicia lukto. Ĉiun jaron okazas 6 konkursoj en neparaj monatoj: januaro, marto, majo, julio, septembro, kaj novembro. Unu konkurso daŭras 15 tagojn.

Esperanto-Sumoo celas altigi legkapablon de esperantistoj kaj kutimigi esperantistojn legi libron kun ĝojo.

Luktmaniero estas jene: 1) Elektu libron, kiun vi legos dum tiu konkurso, 2) Decidu kiom da paĝoj vi legos por unu tago laŭ via kapablo. 3) Laŭ la irado de vera Sumoo-konkurso, ni luktadas. Se vi legas pli ol promesitaj paĝoj ĝis la noktomezo de tiu tago, vi akiros "o" venkon, se ne, "x" malvenkon. Tiamaniere vi luktas kun la libro dum 15 tagoj. Vi ne luktas kontraŭ aliaj luktistoj, sed kontraŭ vi mem. 4) Venko estos markita per litero "o", malvenko per litero "x" kaj nepartopreno per signo "-".

En la unua E-sumoo, en septembro de 2009, dek ok luktistoj, ĉiuj japanoj, partoprenis.

Nuntempe ĉirkaŭ 190 luktistoj el 27 landoj partoprenas en ĝi. Por la E-sumoo ok homoj el diversaj landoj laboras kiel prizorgantoj.

Danke al la E-sumoo mi povis legi multajn librojn dormintajn en la libroŝranko. Mi povis legi dikajn librojn, ekzemple "Fabeloj de Andersen (824 paĝojn)", "KALEVALA (392 paĝojn) kaj aliajn. Nun mi legas la libron "Vojaĝo en Esperanto-Lando (279 paĝojn)".

Mi tralegos ĝin en la venonta E-sumoo, la 33-a en marto 2015.

Kiam mi partoprenis en la 98-a UK en Islando, en iu prelego unu persono sidiĝis apud mi dirinte, "Estas varme, ĉu ne?" Kaj li diris montrante insignon de E-sumoo, "Ĉu vi scias pri tio?" Mi reagis, "Ankaŭ mi partoprenas."

"Al kiu grupo vi apartenas?" "Grupo de Aleksander."

"Oh, Aleksander estas mi!"

Ni manpremis unu kun la alia ĝojante hazardan renkontiĝon.

Danke al la E-sumoo mi spertis bonan interesan renkontiĝon.

### **Anonco pri la ĉi-jara sumoo**

La 33a Esperanto-sumoo: la 15a – 29a de marto

La 34a Esperanto-sumoo: la 10a – 24a de majo

La 35a Esperanto-sumoo: la 5a – 19a de julio

La 36a Esperanto-sumoo: la 13a – 27a de septembro

La 37a Esperanto-sumoo: la 8a – 22a de novembro

<http://www.esperanto-sumoo.strefa.pl/index.html>



# エスペラント入門講習会

Enkondukaj Kursoj de Esperanto

2015年  春

|                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>月曜日</b><br>15:30-17:30 阿佐ヶ谷<br>杉並エスペラント会                   | 文法の基礎をわかりやすく。自習教材も使います。<br>期間： 4月27日～6月8日 (全6回) ※初回16:00～無料講座です。<br>受講料： 3,000円<br>会場： 杉並区内区民センター (阿佐谷ほか)<br>連絡先： 犬丸文雄 esper-ser@freeml.com<br>留守電・FAX 03-3390-3291<br><a href="http://homepage2.nifty.com/sazanko/SERM.htm">http://homepage2.nifty.com/sazanko/SERM.htm</a> |
| <b>火曜日</b><br>14:00-15:30 西日暮里<br>西日暮里エスペラントクラブ               | エスペラントの基礎を楽しく学びましょう。<br>入門講座のほかに中級、基礎会話、上級講座があります。<br>期間： 4月14日～7月14日 (全12回)<br>受講料： 6,000円<br>会場： 西日暮里エスペラントクラブ (西日暮里駅より徒歩3分)<br>116-0013 荒川区西日暮里3-7-15<br>連絡先： 東海林敬子 syozik@qa2.so-net.ne.jp<br>電話 03-3827-7049 FAX 03-3824-1040                                           |
| <b>水曜日 (第2・第4)</b><br>10:00-12:00 井の頭公園<br>三鷹・武蔵野エスペラント会      | 楽しく学ぶことをモットーに、集まった人々の友好もはかる。<br>期間： 4月8日～7月22日 (全8回)<br>受講料： 500円、テキスト実費<br>会場： 井の頭コミュニティーセンター、新館2階学習室<br>連絡先： 鈴木邦生 電話 0422-43-5408 (夜7時～9時半まで)                                                                                                                              |
| <b>水曜日</b><br>15:00-17:00 早稲田<br>18:00-20:00 早稲田<br>新宿エスペラント会 | 水曜日の午後と夜に実施しています。少人数制ですので、<br>受講生のレベルに合わせて講座を行っています。見学や途中<br>からの受講も歓迎です！ <a href="http://ers.cocolog-nifty.com/">http://ers.cocolog-nifty.com/</a><br>受講料： 500円/回<br>会場： エスペラント会館 (東西線早稲田駅前)<br>連絡先： 山本明子 acco-angel@com.zaq.ne.jp<br>留守電 042-779-4821 FAX 042-719-6511      |
| <b>木曜日</b><br>18:30-20:30 早稲田<br>ロンド・コルノ                      | 春は個人教授方式で (開始日・回数は相談)<br>秋に「入門集中講座 (木曜夜3回)」と継続講習を開催<br>ほかに、中級、初級午後の部などもあり<br>会場： エスペラント会館 (東西線早稲田駅前)<br>連絡先： 菊島和子 korno@esperanto.ne.jp<br>電話 03-3429-5173 FAX 03-3429-5196                                                                                                  |
| <b>土曜日 (第2・第4)</b><br>14:00-16:00 池袋<br>池袋エスペラント会             | 期間： 5月9日～7月25日 (全6回)<br>受講料： 3,000円<br>会場： 豊島区立勤労福祉会館 (池袋駅南口7分)<br>連絡先： 千葉俊介 電話 03-3982-2243                                                                                                                                                                                 |
| <b>日曜日</b><br>14:00-16:00 仙川<br>調布エスペラント会                     | 無料1日体験講座4月19日(日) 14:00-16:00 東部公民館会議室<br>期間： 4月26日～5月17日 (全3回)<br>受講料： 1,000円 (学生は500円)<br>会場： 調布市東部公民館<br>連絡先： 谷川健志 kumasan-tt@jcom.home.ne.jp                                                                                                                              |

自習教材 ドリル式エスペラント入門

講習会に参加が難しい方へは基礎文法の案内人付き自習教材があります。ご相談ください。

<ミニ情報>

エスペラント会話2時間入門講座  
はりまエスペラント会 多田龍二

1. 日時：2015年3月1日  
10時から15時半まで
2. 会場：姫路城南側のイーグレひめじ3階  
国際交流センターセミナーC室
3. 講師：塚本 猛
4. 受講料：無料
5. その他：第11回国際交流スプリング  
フェスティバルに参加し、ロビーでは  
展示やクイズを行いました。

高知エスペラント会

高知では定期的な入門講座は開けていない状態です。でも、終了したらできるだけ次の入門講座を開こうとは思って努力しています。

今回は、再開がかなり遅れていましたが、やっと開けることになりました。

そういうわけで、春の講習という訳ではありませんが、この1月27日から新しく入門講座を開始しました。(片岡 忠)

沼津 エスペラント通信講座——エスペラントの力を高めるために——

●エスペラント初級通信講座●

ローマ字の読み書きができればだれでも受講できます。全16課、各課平均20ページの分かりやすい教材で、エスペラントを基礎から学ぶことができます。例文などを吹き込んだ発音練習用CD-R(3枚)つき。例文や練習問題には、もれなく単語の訳が載せてあるので、辞書をひかずに自分のペースで学習ができます。受講期限は1年間。受講会費は1万円です。(学生・年金生活者・失業中・障害者など、経済的に困難な方は、実費8,400円で受講できます)

●エスペラント中級通信講座●

講習会や通信講座でひと通り基礎を終え、エスペラントを本気で身につけたいと考えている人を対象とする、手ごたえのある通信講座です。エスペラント力を一気に離陸させ、万年初心者状態を抜け出すには、集中した学習が必要です。CD4枚つきで、ディクテーションや、ていねいな構文解説のついたテキストの読解、短文作成、自由作文などの練習が、あなたの「聴きとり・読み取り・書き・話す」力をまんべんなく養います。受講期限は1年6カ月。受講会費は15,000円です。(学生・年金生活者・失業中・障害者など、経済的に困難な方は、実費12,000円で受講できます)

●問い合わせと申し込み先●

沼津エスペラント会  
410-0012 沼津市岡一色 501 藤巻方  
電話+ファックス：055-922-3783  
ケイタイ：090-8499-2871  
メール：[esperanto@thn.ne.jp](mailto:esperanto@thn.ne.jp)

☆ LUCERNO に原稿をお寄せ下さい。

☆ 会員相互の意見交換や情報交換に ILEI-JP のメーリングリストをご活用下さい。

ilei-jp ホームページ <http://ilei.jp> メーリングリスト [ileijp@googlegroups.com](mailto:ileijp@googlegroups.com)

ILEI-JP 代表 石川智恵子 [isksanjo@ff.e-mansion.com](mailto:isksanjo@ff.e-mansion.com)  
ILEI-JP 機関紙編集 松木義信 [myoshi@abelia.ocn.ne.jp](mailto:myoshi@abelia.ocn.ne.jp)